

日本人の気概と

歴史教育

織田 邦男 空自74

編集委…本稿は空自パイロットOBの集まり「翔友会」の機関紙「翔友」に掲載されたものですが、関係者の了承を得て転載します。なお、筆者は現在、産経新聞の「正論」執筆メンバーとして活躍中です。

明治期、世界的に活躍した美術史家岡倉天心は、ニューヨークで「茶の本」を出版し、日本の伝統文化について広く紹介した。戦前、国際連盟事務次長を務めた教育者新渡戸稲造は米国で名著「武士道」を著し、日本人の高邁な精神を紹介した。かつて、日本人は日本に対する誇りをもち、強烈なアイデンティティーを保持し、海外で優れた日本の文化や伝統について紹介し、命がけて日本の為に情熱を燃やした。

最近、岡倉天心や新渡戸稲造のような日本人は久しく聞かない。それどころか日本に対し誇りを感じる若者が減少している傾向が意識調査で

明らかになってきている。若者が日本に対する誇りを失い、愛国の至情が消滅しつつあるようでは、「国防」を論ずる以前の由々しき事態である。

20代の国際意識調査結果を見るとこうである。「自国に誇りを感じる」と答えた日本の若者は54・2%で74개국中、71位であった。「国のために戦う」と答えた者は15・6%であり、74개국中ビリだった。ちなみに中国は89・3%、韓国は81・6%、米国では70・0%である。別の調査で「人生で最も重視する目標は国家や社会への貢献」と答えた若者は米国の約70%、韓国が約30%に対し、日本はなんと一桁にすぎなかった。「青少年を見れば、その国の未来が見える」と言われるが日本の将来を憂慮せざるを得ない。

原因は戦後教育にある。「国家」「公」より「個」「私」を優先し、国家と歴史、民族と文化を貶め、国家、国旗を拒否し、揚げ句の果ては祖先、両親への敬慕、子弟間の礼節まで含めたあらゆる伝統的価値観に背を向けた。戦後の歴史教育はその典型だ。学校で使用する歴史教科書は驚くほど自虐的である。マルクス史観の影響を受け、権威、権力の否

定が底流にある。

隋との対等外交を目指した聖徳太子の気概については教科書に記載しない。そればかりか、最近では聖徳太子の存在まで否定しようとする。百姓一揆については強調するが、浮世絵など江戸の文化の高さについてはきちんと書かない。日本に襲来し、多くの略奪と暴行を繰り返した元寇については「日本への遠征」と書く一方、秀吉の朝鮮出兵については「朝鮮を侵略」と書く。世界に誇る無血革命であった明治維新、そして大ロシアを倒した日露戦争等、先人たちが気概を示した歴史はあえて伏せられる。東郷平八郎、乃木希典の名は世界的には有名だが、日本の教科書には載っていない。

近代史では常に日本は悪玉として書かれ、中韓を善玉として描く。日韓合邦を求める韓国人の署名が数万人も集まった事実などは勿論隠される。大東亜戦争以降の歴史についても米国と共産主義を善玉として擁護する。

歴史家トインビーは次のように言う。「ある国を衰亡させるには、その国の先人達が気概を示した歴史を教えなければいい」と。先人が気概

を示した日本の栄光の歴史について
は記憶を失わせ、負の歴史のみ子供
に刷り込む。戦後の歴史教育は日本
民族の抹殺行為ともいえる。

神話も教育されなくなつて久し
い。トインビーはこうも述べる。
「12、13歳頃までに民族の神話を教
えられていない民族は、例外なしに
滅んでいく」日本は「例外なし」の
部類に入つてしまふのだろうか。

そもそも歴史は水滴のようなもの
である。見る角度によつて、雲にも
見れば、霧にも見える。時には虹
にも見える。歴史も立場によつて見
え方は違つてくる。他国の見る視点
に日本の認識を合わせる必要はな
い。まして他国の視点で見た歴史を
日本の学校で教える必要はない。

筆者が米国に留学中、英軍将校に
質問したことがある。「英国ではア
ヘン戦争をどのように教えている
か?」と。彼の返事に驚いた。「義
務教育では教えていない」とぶつき
らばうに応えた後、逆に質問された。

「なぜ、アヘン戦争を教える必要が
あるのか」虚をつかれ、言葉を失つ
ていると彼は続けてこう言つた。「学
校の歴史教育は、子供達に対し先人
が示した気概を教え、国家との一体

感を育み、国家のために頑張ろうと

いう志を育むための教育だ。アヘン
戦争は大英帝国の栄光の歴史の中で
も歴史教育の題材としてはふさわし
くない。だから、義務教育では教えて
いない」と。目から鱗が落ちた思い
がしたが、これが世界の常識なのだ。

日本の場合、悪いことに外圧に
よつて「近隣諸国条項」という足枷
をかけられ、更に歴史教育が捻じ曲
げられている。1982年教科書の
記述をめぐつての誤報が発端とな
り、中国、韓国などの国が抗議して
外交問題となつた。その結果、教科
用図書検定基準に「近隣のアジア諸
国との間の近現代の歴史的事象の扱
いに国際理解と国際協調の見地から
必要な配慮がされていること」とい
う規定が入つた。いわゆる「近隣諸
国条項」である。未だに廃止はされ
ていない。

歴史教育に「必要な配慮」は有害
無益だ。歴史の「水滴」を日本の立
場で見つめることが重要であり、英
国人が言うように「子供達に対し先
人が示した気概を教え、国家との一
体感を育み、国家のために頑張ろう
という志を育む」教育が必要なのだ。
かつて米国教育の現状に危機感を

抱いたレーガン大統領はこう言つ

た。「もし非友好的な外国勢力がア
メリカに対して今日のような凡庸な
教育をするように押しつけたとした
なら、それは戦闘行為に相当すると
みなせるものだ」と。今日のような
日本の歴史教育への内政干渉はまさ
に「戦闘行為」に相当する。欧米の
基準からすると、日本の歴史教育は
異常である。戦後75年、日本の歴史
教育のつけは、今、見事に結実しつ
つある。一番の問題は、このことに
日本人自身が気が付いていないこと
だ。

日本人の気概は薄れ、誇りもアイ
デンティティーも蝕まれていく。欧
米にはこんな言葉がある。「イギリ
ス人を自慢しているやつはイギリス
人だ。ドイツの悪口を言っているや
つはフランス人だ。スペインの悪口
を言っているやつはスペイン人に決
まつている」

かつて世界を席巻したスペインは
何故、没落したか。学校教育で子供
達に対しスペインはインカ、マヤを
滅ぼした悪い国だと自虐教育を続け
た。その結果、スペイン人から誇り
が消えた。これが没落の主因だとい
われる。他人事ではない。

中西輝政京都市立大学教授が述べ

るように「国というものを最も根底
で支えるものは、その文化、伝統、
歴史である。これを共有することで、
初めて国民は一体感や安心感を得ら
れ、社会のモラルにも命が吹き込ま
れる」。

日本は歴史的に見ても素晴らしい
文化、伝統、歴史を有する国である。
過去、先人の示した気概を素直に教
育し、日本の文化、伝統をしっかりと
伝えていくことが学校教育で求め
られている。

明治36年(1903)、岡倉天心
が弟子を伴つて渡米した時のこと
で。羽織・袴で一行が街の中を闊
歩していた際、若い米国人から冷や
かし半分の声をかけられた。「おま
えたちは何? チャイニーズ? ジャ
パニーズ? それともジャワニー
ズ?」そう言われた天心は「我々は
日本の紳士だ、あんたこそ何? ヤ
ンキーか? ドンキーか? モン
キーか?」と流暢な英語で言い返し
たという。こういう気骨、気概を蘇
えらせる教育が今、最も必要とされ
ている。